

政治的教養を育む教育の取り組み（令和２年）

政治の仕組みを理解し、近年の投票率低下の背景と解決策を考える

□ね ら い

基本的な政治的教養を身に付けるとともに、政治に対する興味・関心を高め、近年の投票率低下の背景と解決策を考察し、主権者としての政治への向き合い方を考える。

□内 容

(a) 国家機関の役割

(b) 「私たちが拓く日本の未来」を活用した政治分野の学習

(b) I 日本の選挙制度（衆参両院の選挙制度の違いの理解と投票方法）について考える

(b) II 若年層の投票率低下について考える

(a)

日本の立法・行政・司法の三権を有する諸機関の基本的な知識及び役割を学習した。本単元では国会と内閣の関係性（議院内閣制）を現在の日本政治体制を例に学習し、国民主権の意義を観点とした取り組み（国民投票、裁判員制度など）の理解を図った。

(b)

(a)で学習した国会の内容と関連して、「私たちが拓く日本の未来」を活用し、日本の国政選挙の復習を行い、選挙制度や投票率低下の実態の把握を行った。

I

国政選挙の投票のルールや流れを把握し、衆議院、参議院の議員選挙制度の違いを学習した。実際の北海道、オホーツク管内の各選挙区における候補者・得票数を例に挙げ、当選者の予想を行い、衆参両院の議員選挙制度の違いの理解を図った。

II

「衆議院議員総選挙における年代別投票率の推移」により、現在、投票率低下が進んでいる実態の把握を行った。特に若年層の投票率低下が著しく、選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを受け、投票率の低下の原因、及び投票率を上げる方法について考察させ、発表・意見交流を行った。以下の内容は生徒の意見をまとめたものである。

(問1) 投票率低下など政治的無関心の広まりは何が原因となっているだろうか。

- ・「政治は自分には関係ないことだと思っている。」
- ・「投票してもしなくても何も変わらないと感じるから。」

- ・「政治に詳しくないし、興味が持てない。」
- ・「一票を投じようと思える候補者がいない。」など

(問2)投票率を上げる方法として何が考えられるだろうか。

- ・「インターネット（スマホ）で投票できるようにする。」
- ・「義務や強制にする。」
- ・「投票したら何かがもらえるようにする。」
- ・「投票所を気軽にいけるような場所にする。」
- ・「選挙の日を設け、祝日とする。」など

この二つの問いについて考えることを通して、生徒自身は政治に対する各々の考えを発表し、政治に対する現在の課題について向き合うことができた。「投票率を上げる方法」として挙げられた意見は法的な制約などもあり、容易ではないことから、一人一人の政治意識を高めること、政治の情報を自らが取り入れることの重要性を知る機会とした。

□成果と課題（○は成果、●は課題）

以下の内容は授業の振り返りとしてリフレクションシートに記載があったものをまとめたものである。

- 勉強してみると選挙方法は簡単のように感じた。
- 選挙方法を知ることができた。
- 自分1人の意見は小さいが、自分のため、家族のために選挙に行こうと思った。
- 一票の価値がわかり、自分の考えを持つことの大切さを学んだ。
- 選挙を身近に感じることができた。
- 「必ず選挙に行く」、「おそらく選挙」に行くと答えた人数は8人であった（全9人）。
- 「多分、選挙に行かない」と記載があった生徒もいたため、政治に対する興味・関心を高めることや有権者として持つべき意識は何かを考えさせる授業展開の工夫が必要である。
- 「政治に難しいイメージを持っているため、自分の一票を誰（どの政党）に入れるべきかわからない」という意見もあった。生徒にとってわかりやすく、イメージしやすい工夫を行う必要がある。
- 選挙等の情報入手方法をインターネットとしている生徒が多いため、メディアリテラシーの観点から情報収集を慎重にするべきとして、情報の授業との関連性を図り、教科等横断的な授業展開を推進する必要がある。